



# 第53期 中間報告書

2024年4月1日から2024年9月30日まで

 株式会社アルファシステムズ

証券コード：4719

# プロパー主義の開発体制で培った強みに新しい技術を加えて、持



代表取締役社長

齋藤 潔

## Q 1 中間期の業績、通期の見通し、事業環境についてお聞かせください。

### 良好な事業環境と新入社員の早期有償化により、中間期の業績は計画を上回る

事業環境は概ね良好で、受注が着実に積み上り、約150名の新入社員も想定より早く有償業務に従事することができました。また、お客様との価格交渉も順調に進展したことから、中間期は増収増益となり、期初予想を上回る結果となりました。

### 事業環境は引き続き良好、通期予想に対し順調に推移

分野ごとに多少の濃淡はあるものの、事業環境は引き続き概ね良好です。

通信システム分野においては、「6G<sup>\*1</sup>」や「IOWN<sup>\*2</sup>」に関する検討は着実に進展していますが、一般市場における需要はまだ活性化していません。そのため、当社が次世代のインフラ開発に本格的に参画するには、もう少し時間を要する状況です。

オープンシステム分野においては、デジタルトランスフォーメーション(DX)に対する投資は引き続き活発な状況です。この影響により、官公庁向けの公共関連、キャッシュレス決済を中心とした金融関連が好調で、受注も増

加傾向にあり、今後も伸長すると期待しています。

自社製品を中心としたプロダクト・サービスにおいても、過去に納入したシステムが更改時期を迎えており、受注が順調に積みあがっていくと予想しています。

※1 6G: 第6世代移動通信システム。超高速かつ低遅延の移動通信を実現し、2030年代に商用化される見込み。

※2 IOWN(Innovative Optical and Wireless Network): NTTが提唱する高速大容量・低遅延・低消費電力を実現した次世代の通信・情報処理基盤。

## Q 2 経営戦略の進捗状況についてお聞かせください。

### システム開発事業の基盤拡大: 生成AIとクラウドの活用に注力

システム開発事業の基盤拡大として、まず、生成AIとクラウドの活用に注力しています。

生成AIの急速な普及に対応して、当社は今期からAI推進室を新設し、新しい生成AI技術の調査や生成AIを活用したソフトウェア開発技術の確立に取り組んでいます。生成AIに関する知見をさらに蓄積し、お客様に対する提案や、開発業務の効率化に活かしていく予定です。

クラウドの活用においても、クラウド・ソリューション部を新設し、ノウハウの整理やクラウドシステム開発のスピーディーな提供に取り組んでいます。クラウド関連

# 継続的な成長を目指す

技術は、今後必須の技術要素であるため、技術の積み上げを着実に行っていきます。

## システム開発事業の基盤拡大:

### ソフトウェアの受託開発から超上流工程へ事業領域を拡大

現在、当社の事業はソフトウェアの受託開発が中心ですが、今後はコンサルティング領域も含む、超上流工程へ事業領域を拡大していきます。まずは、当社のお客様であるSler(システムインテグレーター)が行っている要件定義工程への参画機会をさらに増やし、コンサルティングのノウハウを蓄積していきます。小規模案件からのスタートとなりますが、Slerとして事業活動が可能なレベルに成長していくことが目標です。

## 新たな収益源となるビジネスの創出:

### 自社製品の拡充と幅広い分野への進出に注力

新たな収益源となるビジネスの創出に向けて、自社製品の拡充、文教分野以外への展開に注力しています。新たなラインアップではVRゴーグルを使った教育支援システム『alpha V-Reality』をリリースし、現在多くの引き合いをいただいています。また、学校の授業の録画システム『授業録画配信ソリューション』のリリースなど、自社製品の拡充に取り組んでいます。さらに、パ

ソコンの環境復元システム『V-Recover』は、文教分野以外でも引き合いをいただく機会が増えており、今後も幅広い分野へ積極的にビジネスを展開していきます。

## サステナビリティマネジメントの強化: 人的資本経営の強化

当社はソフトウェアの受託開発が主な事業であるため、人材は最も重要な経営資本となります。人材開発の高度化を目的に昨年導入したタレントマネジメントシステムの運用も軌道に乗ってきました。社員のスキルや目標を情報資産として一元化し、人員配置の適正化や、モチベーションアップに活用することで、退職者の減少などの効果が徐々に出ています。また、厚生労働大臣から認定される「くるみん認定<sup>※3</sup>」の継続取得や、待遇面では基準給のベースアップを実施するなど、社内制度や環境の整備にも注力しています。

※3 くるみん認定: 「次世代法に基づく一般事業主行動計画」を策定した企業が、その行動計画に定めた目標を達成するなどの一定の要件を満たした場合に、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣より受けることができる認定。

**Q 3** 株主の皆様へメッセージをお願いします。

## オールマイティさに加えて新たな特色を追求したい

当社の強みは、プロパー主義の開発体制で培った高度なソフトウェアを開発する技術力、そして、受託したプロジェクトの完遂力です。プロパー・エンジニアが開発することで、社内にノウハウを蓄積し、高品質なシステムを

提供することで、お客様からの信頼を積み重ね着実に成長してきました。

しかし一方で、昔は「通信のアルファシステムズ」と言われていた時代もありましたが、蓄積したノウハウや高度な技術力を活かし、様々な分野で事業を拡大するオールマイティさを発揮したことで、特色が見えにくくなっている面もあります。今後は、お客様が必要とされる課題の解決に際し、真っ先に当社へ相談いただけるような得意分野や技術を確立したいと考えています。

## 従来の強みに新しい技術を加え持続的な成長を目指す

現在の当社のビジネスモデルは、エンジニアの人数が売り上げの成長率に関係することから、プロパー主義の追求は効率が低いように見えてしまいます。しかし、パートナー比率を上げ、売り上げを追求するよりも、当社のプロパーの手によって「高品質なシステムと上質なサービスをお客様へ提供する」ことに強くこだわる文化が、今日の当社の成長の基礎になっていると考えています。

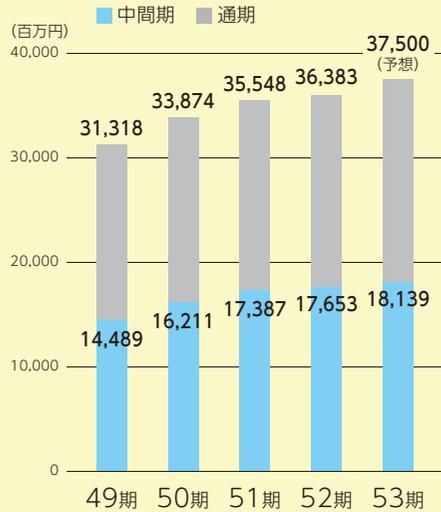
生成AIの活用、超上流工程への事業領域の拡大、そしてタレントマネジメントシステムの活用によるエンゲージメントの強化により、人材の育成を強化し、持続的な成長を目指してまいります。

株主の皆様には引き続き、ご理解・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

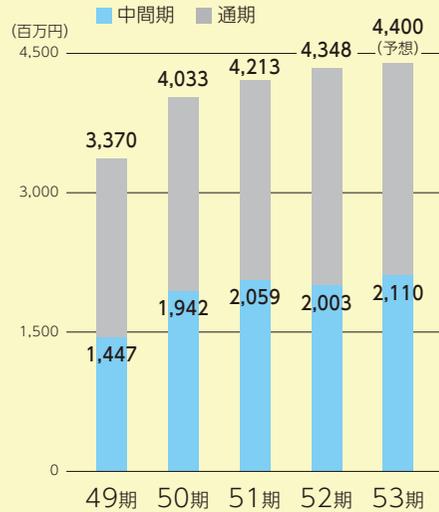
2024年12月

# 事業概況のご報告

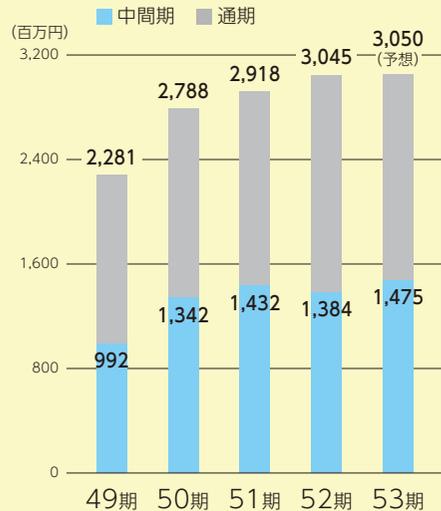
## 売上高



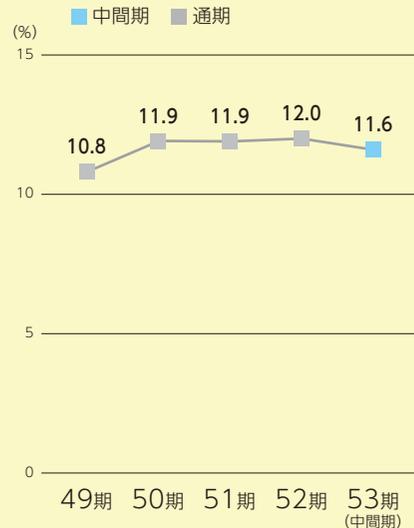
## 営業利益



## 当期純利益



## 売上高営業利益率



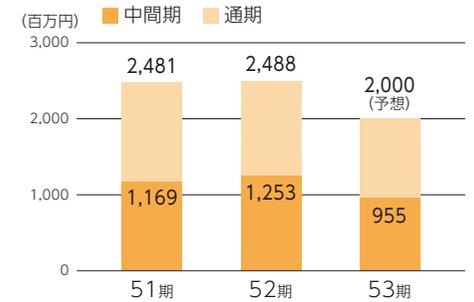
## 事業区分別の概況 (売上高)

### 通信システム

ノード及びモバイルネットワーク関連の売上げが減少したことにより、売上高は3,661百万円(前年同期比4.4%減)となりました。

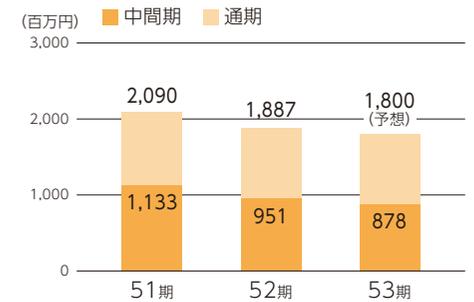
### ノード

PSTNマイグレーション関連の売上げが減少したことにより、売上高は955百万円(前年同期比23.7%減)となりました。



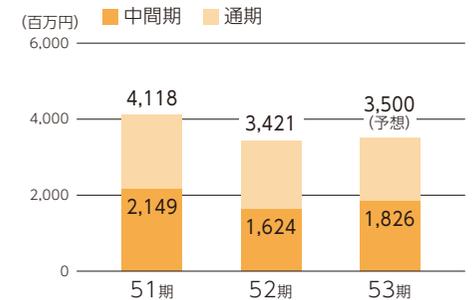
### モバイルネットワーク

携帯端末及び基地局関連の売上げが減少したことにより、売上高は878百万円(前年同期比7.6%減)となりました。



### ネットワークマネジメント

サービス基盤関連の売上げが増加したことにより、売上高は1,826百万円(前年同期比12.4%増)となりました。

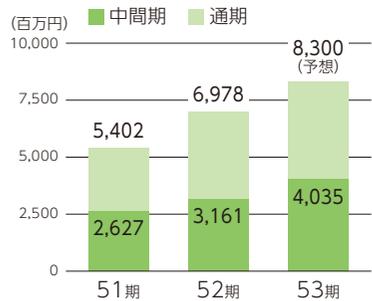


## オープンシステム

公共及び金融関連の売り上げが増加したことにより、売上高は13,374百万円(前年同期比5.5%増)となりました。

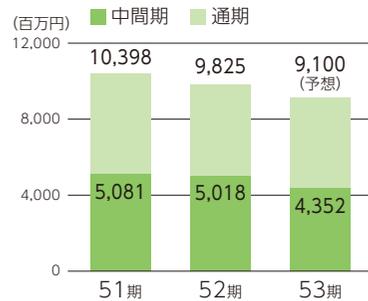
### 公共

官公庁関連の売り上げが増加したことにより、売上高は4,035百万円(前年同期比27.6%増)となりました。



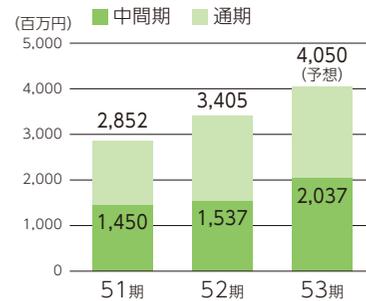
### 流通・サービス

物流及びEコマース関連の売り上げが減少したことにより、売上高は4,352百万円(前年同期比13.3%減)となりました。



### 金融

キャッシュレス決済及び保険関連の売り上げが増加したことにより、売上高は2,037百万円(前年同期比32.6%増)となりました。



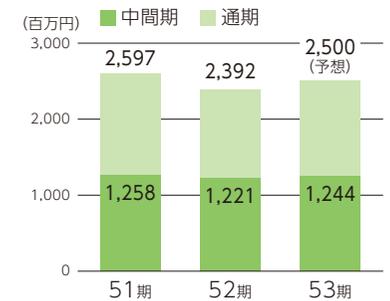
### 情報通信

情報通信の売上高は1,703百万円(前年同期比1.7%減)となりました。



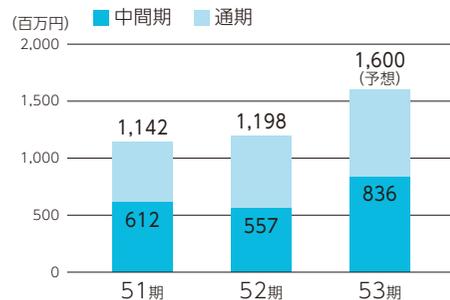
### その他

その他の売上高は1,244百万円(前年同期比1.9%増)となりました。



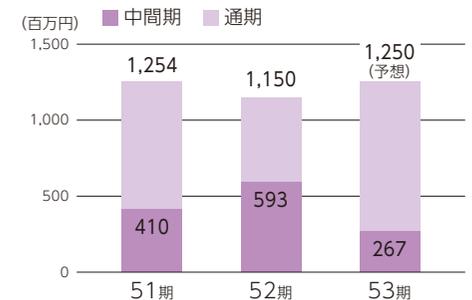
## 組み込みシステム

車載及び計測・制御機器関連の売り上げが増加したことにより、売上高は836百万円(前年同期比49.9%増)となりました。



## その他

文教ソリューション関連の売り上げが減少したことにより、売上高は267百万円(前年同期比54.9%減)となりました。



## 当社を取り巻く事業環境

当社の主力事業であるソフトウェア開発関連事業では、**開発体制を強化**し、受注案件の着実な積み上げに取り組んでいます。また、将来的なビジネス領域拡大を目指して、**超上流工程への積極展開**や**AIに対する取り組み**を強化しています。さらに、主力事業の根本となる人的資本への対応としては、**優秀な人材の職場定着**や**新たな人材の獲得**のため、社員の待遇改善や積極的な採用活動に注力しています。

### ソフトウェア開発関連



#### 開発体制の強化

新入社員の有償化やビジネスパートナーによる体制強化が期首予想よりも順調に進展



#### 良好な商談見通し下での営業展開

確度の高い商談や目論見通りに進行した案件が増加



#### 超上流工程への積極展開

ユーザ企業から直接受注する商流の拡大を目指し、業務知識を活用したコンサルティング営業と、システム提案に必要なクラウド関連技術の強化を推進



#### AIに対する取り組み

AI推進室(2024年4月新設)が中心となり、AIに関する技術の蓄積と全社的なビジネス・業務利用を推進

### 人的資本への対応

#### 厳しい採用環境が続く中、安定的に人材を獲得

##### ▶ 技術者採用活動の状況(中途採用含む)

| 年度   | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 |
|------|------|------|------|------|
| 入社人数 | 159  | 105  | 160* | 172* |

※2024年10月末時点

2024年4月 **給与のベースアップおよび新卒初任給の引き上げを実施**

2024年6月 **くるみん認定取得(3回目)**

# AI推進室の活動内容

生成AIを始めとするAI技術が急速に普及しており、業界全体に影響を及ぼす重要な技術として注目されています。この技術は、既存ビジネスモデルの刷新や新たな価値創造、さらに社員の働き方の革新に大きな可能性を秘めています。こうした背景を踏まえ、当社ではAIの全社的なビジネス・業務利用を推進するために、今期より「AI推進室」を設立しました。この専門組織の設立により、AI技術に関するノウハウを集約し、効果的な推進と管理を図ります。

## これまでの活動内容

- 1 開発生産性向上**
  - 日々変化の激しいAI活用技術の最新動向をキャッチアップ
  - 技術情報の展開や開発技術への適用検証、社員のスキルアップ教育を実施
- 2 技術提案**
  - 主要顧客へ当社の持つAI技術や施策を説明し、AIソリューションによる課題解決の技術提案
- 3 自社プロダクト価値向上**
  - 当社文教市場向けプロダクト製品へAI技術を導入する検証を開始
- 4 先端技術の調査**
  - GraphRAG<sup>\*1</sup>技術を始めとするRAG<sup>\*2</sup>システムの導入検証を実施
  - ローカルLLM<sup>\*3</sup>のAIソリューション・自社プロダクトへの適用を実施
- 5 AIチャットボット運用**
  - Azure OpenAI Serviceを活用したチャットボットサービスを全社員に展開
  - 画像などのマルチモーダル対応など、AIの技術動向に合わせた機能を改善
- 6 社内ルールの確認**
  - 世の中の状況に合わせてコンプライアンス・セキュリティを考慮しつつAIの運用ルールを見直し社員全員がAI技術を積極活用できる環境を整備
- 7 プレゼンス向上**
  - 各種セミナーへの参加、業界団体への参画を通じて、社外への認知度向上

※1 GraphRAG: RAGにナレッジグラフを適用させた技術(参考: アルファテックブログ「話題のGraphRAGとは - 内部構造の解析と実用性の考察」)

※2 RAG: 企業内情報検索を組み合わせて生成AIを拡張する仕組み

※3 ローカルLLM: 閉域ネットワークで安全に生成AIを活用する仕組み

## 今後の目標

AIを活用した価値向上と競争力あるビジネスモデルの創出

AIのビジネス、業務利用の全社展開

## 今期の活動テーマ

今期は、システム開発業務における生産性向上や工数削減を狙った開発事業へのAI活用、顧客へのAI技術提案や文教市場向けプロダクト製品へのAI導入などAIソリューション導入による価値向上を進めています。また、AI利用環境を社内積極的に導入し、バックオフィス業務を含めた作業効率向上を検討しています。

今後、AI推進室は、AI技術を検証段階から実用化へと移行させ、企業価値の向上と業務の効率化を目指します。提案力を高めるために、社員のAIスキルを向上させ、顧客への信頼性のある提案と社会実装を行います。また、バックオフィスを含めた社内全体でのAI普及を一層拡大し、業務全般の効率化を進めてまいります。組織としては、適切なガバナンスを維持しつつ、迅速な対応力を強化し、変化の激しいAIの動向に柔軟に対応していきます。

このように、AI推進室はAI技術を活用し、全社的な業務効率の向上と新たな価値創造を目指して、これからも積極的に活動を展開してまいります。今後の活躍にご期待ください。



## 「くるみん認定」の星が3つに増えました

当社は、2024年6月24日に「次世代育成支援対策推進法(以下、「次世代法」という。)」に基づく「くるみん認定」(3回目)を取得いたしました。

### ▶「くるみん認定」とは

「次世代法に基づく一般事業主行動計画」を策定した企業が、その行動計画に定めた目標を達成するなどの一定の要件を満たした場合に、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣より受けることができる認定です。

今回、当社では計画期間(2021年4月1日～2024年3月31日)内に、男性社員の育児休業の取得率40%以上にするという目標を設定し、2024年3月末時点において、男性の育児休業の取得率は**66%**となり、目標を達成いたしました。なお、認定マークの星の数は、認定を受けた回数に応じて増えていきます。今回の認定により、当社の星の数は3つとなりました。



### ▶今後の取り組み

「子育てサポート企業」として、新たな一般事業主行動計画を策定し、「くるみん認定」の継続取得を目指します。これからも社員が仕事と子育てを両立できる、働きやすい職場環境づくりを進めてまいります。

### 【新たな一般事業主行動計画】

計画期間：2024年4月1日～2029年3月31日までの5年間

目標：計画期間内に、男性社員の育児休業の取得率を70%以上にする

### ▶当社の子育て支援に関するこれまでの認証・認定

| 年月      | 認証・認定                     |
|---------|---------------------------|
| 2018年5月 | 「神奈川県子ども・子育て支援推進事業者認証」取得※ |
| 2019年6月 | 「くるみん認定」(1回目)取得★          |
| 2021年6月 | 「くるみん認定」(2回目)取得★★         |
| 2024年6月 | 「くるみん認定」(3回目)取得★★★        |

※育児休業や育児短時間勤務等の制度化を含む一定の要件を満たした場合、神奈川県より受けることができる認証。

|                  |  |
|------------------|--|
| 事業年度             | 4月1日～翌年3月31日   |
| 期末配当金<br>受領株主確定日 | 3月31日  |
| 中間配当金<br>受領株主確定日 | 9月30日  |
| 定時株主総会           | 毎年6月   |
| 株主名簿管理人          | 三菱UFJ信託銀行株式会社  |
| 特別口座<br>口座管理機関   | 三菱UFJ信託銀行株式会社  |
| 同連絡先             | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部<br>東京都府中市日鋼町1-1<br>電話：0120-232-711(通話料無料)<br>郵送先：〒137-8081<br>新東京郵便局私書箱第29号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 |

|         |  |
|---------|--|
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所  |
| 公告の方法   | 電子公告により行う<br>公告掲載URL <a href="https://www.alpha.co.jp/">https://www.alpha.co.jp/</a><br>(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) |

### お知らせ

- ご注意
- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
  - 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
  - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 株式会社アルファシステムズ

〒211-0053  
神奈川県川崎市中原区上小田中6丁目6番1号  
本社(中原テクノセンター1号館)  
電話：044-733-4111(代表) Fax：044-739-1100  
<https://www.alpha.co.jp/>

